

たこ天村新聞

第1号

2025年

[制作]
PAS心理
教育研究所

たこ天2025 村民募集中

参加申込は6月9日

(月) まで

たこ天村役場は、2025年の「たこ天」の村民(参加者)を募集している。7月12日(土)から14日(月)の2泊3日で開催される今年の「たこ天」は、下は高校生から上は年齢制限なく、50名の村民を募集する。たこ天村パンフレットは、PASウェブサイト(<https://www.pas-ins.com>)またはたこ天ウェブサイト(<http://takoten.pas-ins.com>)に掲載中。

昨年のたこ天終了直後から事前予約を受け付けており、参加受付開始から一カ月が経った5月1日現在、10名の男女の参加申込が届いている模様。「今年は酷暑対策などを考慮し、例年より1ヶ月前倒しの7月開催になるので、締切も1ヶ月前倒しになります。小グループは原則先着順に席が埋まるので、参加を決めている人は早めの申込を。夏休み前の忙しい時期かもしれないが、調整してぜひ参加してほしい」と村役場企画課長は呼びかけている。

大人の中の逞しい子ども心

たこ天は40年以上続く、PASの一年で最もパワフルなイベントである。なぜパワフルなのか? その秘密に迫ってみた。たこ天の土台には「人の中にはどこまでも成長し発達し続ける逞しい子どもが生きている」という精神分析の視点がある。その内なる子ども達が元気になる天国を作ろうというスローガンから、逞しいの「た」、子どもの「こ」、天国の「天」をとって「たこ天」と、参加者がつけた愛称で呼ばれるようになった。

それぞれの想いを持って集まった50名前後の参加者とスタッフ全員の60数名で「たこ天村」を作る。その中で3日間過ごし、逞しい子どもが目覚める創造的活動を生み出し、互いにエネルギーを高め合いぶつけ合う中で、かけがえのない個性をそれぞれに磨く。これを3日間日常から離れた合宿で行うのがたこ天村である。エネルギーがぶつかり合う村だからパワフルになるのである。怒りも愛もぶつかり合い、時に涙し、時に笑い、喜ぶ。そのパワフルな輪に入ることで人は元気になるのである。

人中の安全がここにある

無差別襲撃の事件の連鎖がなかなか止まらない。「すべてがいやになった」「家族から抜け出したかった」と事件を起こす。ニュースを見て憤りを覚えると同時に、「事件起こす前にたこ天来いよ……」と私は本気で思っている。

本気で自分の怒りに向き合ってくれる人、魂の叫びを聞くだけでなく受け止めてくれる人、そして本気で愛してくれる人。そういった人がいないとき、人は自暴自棄になり、無差別になる。3日間、文字通り顔も膝も突き合わせて向かい合うたこ天村には人がある。「誰もいなきゃ俺んとこへ来い、受けてやる」。花井親父からの呼びかけだ。人の中で生きていることを感じよう。(花井)

記者随時募集中

たこ天村新聞では、たこ天前からたこ天期間中まで、紙面づくりを一緒に行う記者を募集します。取材、文章作成、写真撮影、編集など各部門で活躍できます。ご希望の方は花井まじ(pas@pas-ins.com)。